

【H31地域ICTクラブ実証事業】 実証地域(沖縄市、宜野湾市)
誰でも地域でSTEM が学べる「おきなわロボットと未来研究会」

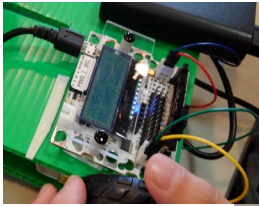
R2.3.26 現在

| | | |
|---------|--|--|
| 事業者 | おきなわICTクラブ運営協議会（代表団体 一般社団法人 おきなわジュニア科学クラブ） | |
| 事業コンセプト | <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の居場所を活用し、児童誰もが、いつでもSTEM教育を学べる居場所を創る。 ・ キャリアパスの場とし、経済的、地理的(沖縄と本土の情報格差, 教育機会格差)バリアを取り払うモデルを構築する。 ・ 地域の教育・福祉・協働等を含めた地域包括的連携×ICTの仕組みづくりを実証する。 | |
| 事業費 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1776千円 | |
| 取り組み | <p>こどもの居場所・公民館にて ① STEM教育のロボット製作・プログラミングを学ぶ研究会を開催。</p> <p>② 研究会で指導するメンターを養成する研修会を開催。</p> <p>③ 地域包括的連携で障がい者・児・アクティブシニアの地域活動参画を図る。「地域共生型インクルーシブ学びの場」</p> <p>④ 研究会を通して子どものキャリアパスを広げる、オンライン国際交流や科学イベント参加を組み込み実証する。</p> <p>⑤ 研究会を持続的に維持できる資金面の仕組みを構築する。</p> | |



児童 講座企画～実施

講座名：ロボットと未来研究会「生活に役立つサービスロボットを作ろう！」全6回



メンター育成

・全3回（計13・5時間）
講師：埼玉大学STEM教育研究センター
代表 野村泰朗氏

STEM教育講師養成研修会
（ロボットと未来研究会リーダー研修修了認定）



成果

- ①「教えない」をコンセプトとしたことで、自主性と自分なりの工夫ができる論理的思考が育まれた。
- ② 特性を持つ複数児童の特性に合わせたメンターやサポーターの寄り添い方や配置を工夫し、住民が支えるインクルーシブな地域の学びの場の構築が可能であることを実証できた。

| 構成員種別 | 主な属性 | 人数(名) |
|-------|-------------------------|-------|
| 参加児童等 | ・ 小学1年～高校3年 | 30名 |
| メンター | ・小学生～シニア(60代後半) | 22名 |
| サポーター | 地域・近隣住民9・高校生1・中学生1・保護者5 | 16名 |

校長会、教育委員会、居場所を主体として周知したことで、多様な児童の参加が見られた。メンターも地域性から、IT企業を早期退職した外国籍のエンジニアや、地元の放課後児童教室関係者、PTA関係者に繋がり、幅広い層から参加があった。
市の地域づくり塾事業へ周知したところ、メンターへの応募があり、継続しての参加率が高く、今後のメンター確保先として有効。